

# 移動困難者を抽出する個人属性の特定 ～福祉交通の導入要否に関する2地区の調査分析から～

トヨタ自動車（株）未来創生センター 和田 敦・佐多 宏太

**【背景】** 高齢者の移動手段確保は社会課題であり、静岡県裾野市の住民から移動に困っているとの声が上がっている地域へ、福祉交通導入の必要性が議論され始めている。

**【目的】** 高齢者の情報や移動状況から、将来、移動に困る可能性の高い人を推定し、移動に困る人を示唆する重要な個人属性を特定する。

**【実施事項】** 静岡県裾野市内で、移動に困る可能性のある地域を対象に、アンケート調査、データ分析・評価

## 【特徴】



移動に困る可能性のある地域

【図1：南堀区と原区の特徴】

## 【アンケート】

南堀地区の皆様へ  
裾野市の公共交通をより良いものにするための調査にご協力ください。

設問①～⑫に、○印をお付けください。

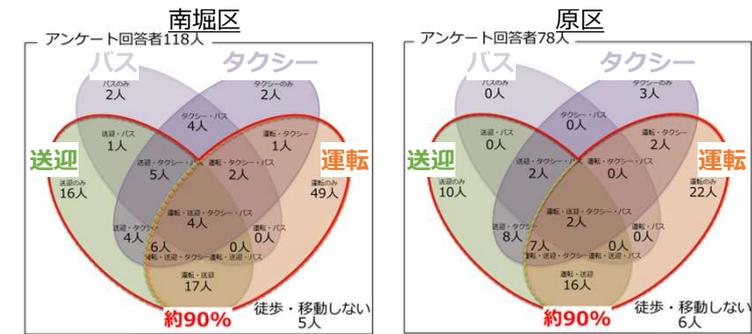
①性別 女性 男性 その他  
②年齢 65～69才 70～74才 75～79才 80～84才 (65才未満) 1人 2人 3人 4人 5人 6人 7人以上 (65才以上) 1人 2人 3人 4人 5人 6人 7人以上  
③世帯人数 0台 1台 2台 3台 4台 5台以上  
④世帯の車台数 0台 1台 2台 3台 4台 5台以上  
⑤運転免許の有無 あり 返納 なし  
⑥自宅からファミマまで徒歩の距離 1～4分 5～9分 10～14分 15～19分 20分以上  
⑦ファミマ～深良深良店から無理なく歩ける場所 無理なく歩ける距離  
⑧送迎(家族、知人など)の利用頻度  
⑨タクシーの利用頻度  
⑩市内循環線バスの利用頻度  
⑪タクシースタンドの利用頻度  
⑫運転(自家用車、レンタカーなど)の利用頻度

具体的な場所の提示で精度UP 最低限の分かり易い設問により負担減

丁寧な説明により、協力世帯90%

【図2：アンケート内容】

## 【データ分析】

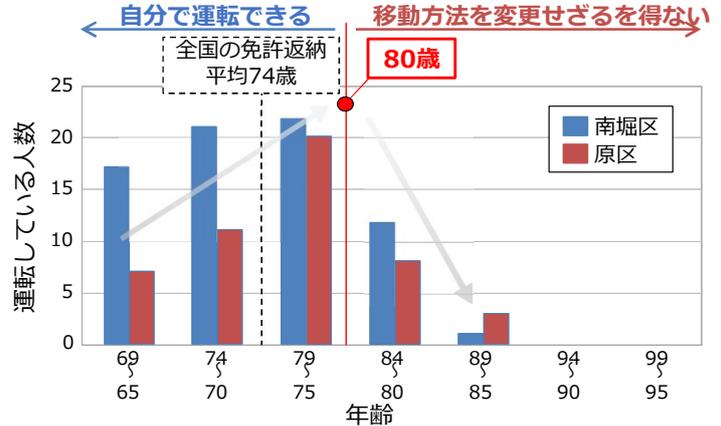


自家用車で移動する人90%の地域性

↓仮定

将来、移動に困る人の探索は、自家用車に関する属性、バス利用への転換に関する属性が重要と仮定

【図3：現在の移動手段の分類】



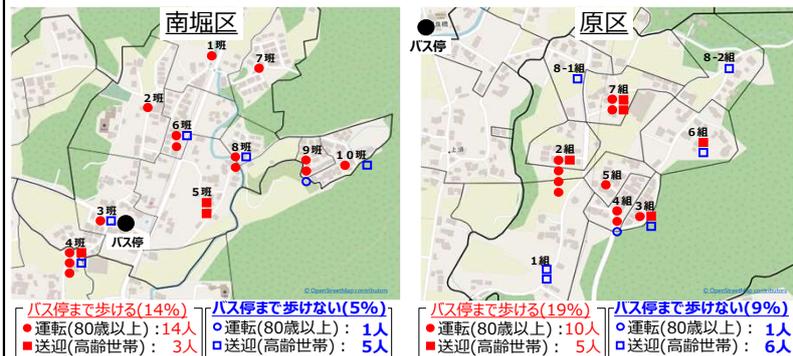
80歳をすぎれば、移動方法を変更せざるを得なくなる

【図4：自分で運転を続けられる?】



運転している80歳以上、送迎を受ける一人暮らし・高齢のみ世帯は、将来、移動に困るかも

【図5：将来、移動に困る可能性のある人】



バス利用への転換ができない人は、将来、移動に困る可能性が高い

【図6：バス停まで歩ける?】

## 【考察】

南堀区と比べ、原区では一人暮らしで送迎を受ける人、バス利用に転換できない人の割合が高い。将来的に原区では福祉交通の需要がより高まると考えられる。

## 【まとめ】

将来の移動困難者を探索し、重要な個人属性は、運転の有無、年齢、送迎の有無、世帯構成、自宅～バス停までの距離、無理なく歩ける距離と特定できた。今後、今回の属性に基づく分析手法を拡張し、合理的な市全体の福祉交通施策に活用されることが期待される。